

## 兵庫県将来構想研究会 第14回会議 (2020.12.21) 要旨

### 【議題】 取りまとめ② (将来構想試案 (案))

#### (きれいに丸まった試案では面白くない)

- ・ 2050年の話なので、ある意味ぎょっとするような表現があってよい。きれいに丸まってしまったものでは面白い議論にならない。あえてその役割を果たすのが、この試案の意義だろう。

#### (全県ビジョンと地域ビジョンの関係)

- ・ ビジョンを、そもそもなぜ県単位に考える必要があるのか、というところの説明が必要。
- ・ 攻めと守り、右と左の中で何となく真ん中に収まっている試案。良くも悪くも兵庫県のだが、これはこれでよい。県のビジョンは、上位計画というよりは、あくまで真ん中を示したもので、地域単位では、もっと左右散らばって尖ってほしいということが伝わるものになればよい。

#### (美という言葉の持つ意味)

- ・ 「美」という言葉が大きく位置づけられているが、県民に届く言葉だろうか。自分で評価できない「美」よりも、自分で評価できる「豊かさ」の方が旗印に相応しいのではないか。
- ・ 美などの伝統的な価値観と、性の多様性など新しい価値観に、少しずつれがあるように感じる。「多様な価値観を認めることが兵庫の伝統」とった伝統的な価値観と多様な価値観が両立しうる書き方になれば、「精神的な美しさ」に違和感を覚える人も受け入れやすいのではないか。

#### (強い人向けに見えないようにすること)

- ・ 取り残されている人が多数いる中で、全体に何となく「強い人」向けの内容になっているのが気がかり。我々自身がそういうことに鈍感な立場にいると自覚することが大事だ。

#### (自然や環境をもっと前面に出すべき)

- ・ 「自然」や「環境」に関する記述がもっと前面に出てきてもよいのではないか。農業では、もっと環境に配慮した農業を目指すといった強いメッセージを出すことも考えられる。
- ・ 兵庫県らしさを示すという意味では、環境と農業を、もっと上位に位置付けるべき。カーボンニュートラルでは、それを実現した先にどんな社会を作っていくのかを議論すべきだ。

#### (誰も取り残さない社会へ)

- ・ 先端的に変化しているところに関心が行きがちなのは仕方ないが、記述のあり方として、SDGsのような誰も取り残さないという視点がベースにないと、やはりまずいのではないか。
- ・ 家族の将来を考えたときに一番重い課題は「8050問題」だ。今まで親の年金などで暮らしていた単身者が放り出されていく。その人たちをどう包摂するかが結構大きな課題だと思う。

#### (男女格差の解消)

- ・ 「女性は子育てと社会での活躍を無理なく両立」は、今できてないとおかしい話。現実的にはそうなのかもしれないが、将来できるといいですねみたいな書き方はビジョンとしていかがか。

#### (人間と共存するAI)

- ・ 人の代替をするだけでなく、人の能力を補完するのもAIの役割だ。AIを味方につけて、今まで社会参画できなかった人でも自由に働くことができるようになるということが必ずあるはず。AIと共存することによって生き方、働き方が豊かになるということまで書いてほしい。

### (ユニバーサル社会を考える視点)

- ・ 身体障害者は実は 65 歳未満では減っていて、増えているのは精神障害者。今そういう人たちが労働力としてエントリーできなくて、例えば引きこもりになってしまうという現状がある。いわゆる「見えない障害」の人たちにとってのユニバーサルな視点が今後一層重要になる。

### (支え合う地域)

- ・ 大切なのは「稼ぐコミュニティ」ではなく、支え合うコミュニティだ。地域にいろんな仕事があって、地域の中で支え合うことで地域の経済が回っていくような社会であってほしい。

### (プロセス重視のビジョンづくりを)

- ・ 暮らしが便利になる、テクノロジーが進化するといったことは合意が取りやすいが、価値観の部分は、抵抗する県民も多いと思う。そこをうまくつなげる仕掛けは、ほぼ教育だと思う。
- ・ 人間は、変わらないといけないと言われて、すぐ変わるものではない。抜本的な変化が起きていく中だからこそ、変化のプロセスを一緒に考えていきましょうという声かけが重要。
- ・ 作る過程の中で一緒に地域を作ってくれる人々をいかにまとめていけるかが問題。試案のシナリオにないことも含めて、ビジョンのもとに活動を展開していく県民との関係づくりが重要だ。
- ・ ビジョン実現の鍵は教育にある。自分が共同体の中のコミュニティのメンバーに対して、何かしらできることをしていかないとけないという意識を醸成する教育が重要だ。

### (今こそリアルを大切に)

- ・ オンラインやデジタル化が当たり前でできている前提で、根本的に大事なことは何なのかを示すべき。やはりリアルが重要で、地域が重要ということを示す、そこが魂だと思う。
- ・ テクノロジーはあくまで手段。目標とする姿に対して、技術がどのように貢献するのか、あるいは、ある目標に照らして、もっとこういう技術革新が必要だといった議論があってもよい。

### (若い人が共感できるビジョンに)

- ・ 若い人にとって魅力的なプランであってほしい。30 年後の社会を担う今の若い人たちが、なるほどこういう感じになるといいなあというイメージを共有できるかどうか大事なポイントだ。

### (ビッグピクチャーが必要)

- ・ シナリオは相互に関連するはず。そのつながりを示せないか。社会はシステムであり、一つ変えれば他のところも必ず何か影響を受ける。全体の関係性を示すビッグピクチャーがほしい。

### (生産性の向上が大きな課題)

- ・ 日本の一人当たり GDP は世界の 20 位より下まで下がった。日本が現実に貧しくなっているということであり、いかにして生産性を上げるかという議論をしないと非常に危ない状況だ。
- ・ このまま一人当たり GDP が下がると、日本に来る外国人は減る。異なる文化を持った人が来ないとイノベーションも起きにくくなる。多文化共生だけでは済まない大きな問題だ。

### (南海トラフ後の社会づくりの指針になるビジョンを)

- ・ 南海トラフ地震は、このビジョンの期間内にほぼ確実に起こる。防災に力を入れる以上に、南海トラフ地震後に、兵庫県はどのように回復していくかを示すビジョンが求められている。そのときに五国の特性をどう生かすか、臨海部と内陸部がどう連携するかといった視点が重要。

(以上)